

03-02-01 — 子どもの指導者は？ —

子育て真只中のお母さんは、赤ちゃんの成長の早さに驚かされると思います。特に生後3～4 か月頃には笑ったり声を出したり、可愛さは倍増してきます。子どもの表情は、親と子の性格にもよりますが、やはりお姉ちゃん・お兄ちゃんのいる家庭の子の方が良く笑い、手足の動きも活発です。母と子が二人きりで一日の大部分を過ごす状態は、昔は異常だったと考えて下さい(“—生活リズム①—”参照)。大家族で育った子どもの周りには、年寄りから子どもまで沢山の人が生活していました。さらに、近所のお姉ちゃんやおばさんも、それぞれの立場で**自然に赤ちゃんに係わってくれました**。すなわち、**育児はお母さんだけではなく、周囲の人たちも、それぞれの立場でかかわり、それとなく助けてくれたのです**。

今は、育児の全てが若い母親(と父親)に任されています。少子化の影響で近所に同じぐらいの子も居なくなり(“**公園デビュー**”など死語となりました)、子どもがひとりで歩く(または、保育園に入る)まではと、家の中で遊ばせているお母さんが多くなっています。当然、子どもの発達にも少なからず影響が出ていし、お母さん方にもストレスがたまっているようです。

子どもは、他の子の行動を見て動き方を覚えます(=ハイハイ・つかまり立ちなど)。目の前の子がやって見せてくれた方が、大人が子どもに教えるよりもずっと早く覚えます。実際、当院の「子育て支援室」で、ハイハイをしている子をジューッと見ている子が居ました。すると翌日、お母さんより「家に帰ったら、急に、ハイハイが出来るようになりました。」と**“うれしそう”電話**をもらった事もあります。

人間はもともと**集団で生活する動物**です。色々な年齢の**子ども達と遊ぶ**ことは、**子どもの精神状態も安定**するし、**知力や運動能力も発達**し、**心地よい疲労感**にもつながります。お母さん一人で頑張らないで、子育て支援関係の集まりへ出来るだけ頻回に出席されることを推奨します。また、そこでの親同士の雑談も、お母さんのストレス解消になります。

“子どもの指導者は子ども！”忘れないでください。

